

# 市長コラム

## ～今こそ地域連帯～

Vol.24



令和5年が幕を開けてから早くも1カ月が経過しましたが、市民の皆さんにはすがすがしい新年を迎えられたこととあらためてお喜び申し上げます。

さて、1月8日に「令和5年はたちを祝う集い」を開催し、新成人の皆さんの立派な姿を目の当たりにして大変心強く感じました。これからの社会を担う若い皆さんの今後の限りないご活躍を心から期待しています。

### ★地域活性化に向けて「活動人口」を増やすことが重要

当市の昨年末の人口は51,641人で、この1年間で約800人減少しました。当市においては、直近の高齢化率が35.89%と県内平均の33.95%より高く、今後もしや応なく人口減少は進んでいくものと思われます。こうした状況に直面する中、私としては、たとえ人口が減っても、市民の皆さんが安心して、そして、愛着と誇りを持って住み続けたいと思える魅力ある街づくりが最優先課題であると思っています。

「交流人口」や「関係人口」を増やすことも重要ですが、真に地域社会が元気になるために、市民が元気であることが前提となることから、地域でさまざまな活動を行う「活動人口」を増やしたいと考えています。ここに住む人たちが生き生きと活動し、横のつながりを深め、目的を共有して何かに取り組むことが重要であり、その成功例が、前回のコラムでも申し上げましたが、大盛況であった昨年9月の「キッズフェスタ2022 in 五所川原」、そして、10月の「ホコ天マルシェごしょがわら」であり、各民間団体の連携とマンパワーが大きな成果を生み出しました。こうした取り組みを足掛かりに、民間が主役となって地域を元気づける取り組みをより一層活発化させ、子どもから高齢者まで多くの市民が活躍する「活動人口」を増やし、地域全体の活力を底上げして、持続可能な「五所川原版市民協働社会」を構築していきたいと思っています。



『令和5年五所川原市新年祝賀会』の様子

### ★今こそ「官民連携」によるまちづくりの推進

昨年の大雨などみぞうの自然災害や長期化するコロナ禍、そして、昨今の急激な物価高騰など、私たちが経験したことの無い社会情勢の中、その閉塞感を打開するため、前例や常識にとらわれない新たな発想が、今まさに求められています。

人口減少や高齢化により、行政、民間ともにマンパワーが確実に減少していく中で、新たな価値を創造していくためには、民間の多様なノウハウや活力を生かし、地域づくりや地域活性化を行っていかねばなりません。そして、新たな「地域イノベーション」を達成するために民間団体や個人による「チャレンジ」を積極的に展開できる風土づくりを進め、さまざまな主体の活力を行政が後押しするような役割を果たし、「官民連携」によって、より良い地域社会づくりを進めていければと思います。

### ★「うまいもんフェスタ in かなぎ」開催！

2月4日(土)に、金木総合支所の駐車場で「うまいもんフェスタinかなぎ」を開催します。金木商工会の企画により実行委員会が主催する初めての試みとなるイベントです。金木地域の特産品の代表格である「馬肉」を使った料理や工夫を凝らしたさまざまな金木ならではの「自慢の逸品」が登場します。

馬肉の生産量は熊本県が有名ですが、青森県も全国で上位に位置しており、その中でも「金木の馬肉」の食味は、本場の熊本県や福島県等と比べても引けを取らないと思っています。五所川原市のふるさと納税の返礼品の中でも、米やりんご以外では「十三湖産のしじみ」に次いで高い人気を誇る品となっています。今や金木にとって「ソウルフード」となった「馬肉」をはじめ、金木のグルメを存分に満喫できる、子どもから大人まで楽しめる盛りだくさんの内容となっていますので、ぜひ足を運んでいただければと思います（3ページ、26ページ掲載）。



『令和5年五所川原市はたちを祝う集い』の様子